

16 アルブレヒト・フォン・ローレツの

研究 (2)

○小形 利彦・エリッヒ・ラブル¹⁾

演者らは、一八七四(明治七)年に来日以来、横浜・名古屋・金沢・山形の各地でドイツ医学普及に貢献したお雇い外国人医師アルブレヒト・フォン・ローレツ(Dr. Albrecht von Roretz)の業績に注目して資料調査を続けてきた。その結果の一部については、昨年度の本学会で

1. ギムナジウムでの履修科目と成績
2. ウィーン大学での医学履修科目
3. 来日の理由と肩書の由来

の三点について報告した。

ローレツは、訪日の理由の一つに地理学的研究を挙げ、来日もない一八七五(明治八)年三月下旬から六月にかけて、ライン(ドイツ人地理学者)とともに西日本(九州・四国・高野山・伊勢・奈良・京都)を旅行し

た。この旅行に基づいて書かれた報告『Bericht über eine

Reise durch die südlichen Provinzen von Japan』は、

オーストリア・ハンガリー帝国地理協会の年次報告書

『Geographischen Gesellschaft』(一八七五・七六年版)

に掲載された。この報告書に書かれた内容についてロー

レツは、ミニエッセイと断りつつも、その内容は地理学

に興味を持ちつつも医学を学んだ科学者らしい記述に満

ちあふれている。一方、ホルン市郊外のプライテナヒ

にあるローレツ家には「ローレツコレクション」と呼ば

れる写真が多数あり、この写真を整理したところ

1. ローレツ家に関するもの
2. ローレツの個人的なもの

に大別され、2. についてはさらに

- a. 個人的なもの
- b. ヨーロッパ各地

c. アメリカ各地(来日の途中と推定される)

d. 日本各地

に分類され、d. についてはさらに

a. 交際のあった日本人から手渡されたもの

イ・ローレッツが個人的に入手したもの(買ったものも含む)

ウ・ローレッツが個人的に撮影したもの

に区分される。ローレッツが帰国した一八八二(明治十五年)年から、かなりの時間が経過しているので、その間の紛失を考慮しても現存している写真からだけでローレッツの足跡をたどることは可能である。この度の発表ではローレッツコレクションの写真についてスライドで紹介したい。

(1) 東北大学大学院研究生

(2) オーストリア国ホルンギムナジウム